

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科設置の理念・目的の定期的見直しをする。	→研究科委員会および研究科懇談会での理念・目的についての見直しの議題件数。	B	B	B	B	B
2. 研究科の使命および目的について公表し周知する。	→広報媒体(ホームページ、要覧、パンフレット、紀要など)の使命および目的に関するコンテンツの件数。	A	A	A	A	A
3. 研究科の固有性および特色について定期的に検証する。	→ワーキング・グループの設置と検討回数および報告書の作成とその公表の部数。	B	B	B	B	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本研究科の設置の理念・目的、また、それに連動するカリキュラムなどについて、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねてきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2010年度には理念・目的を具体的に充実する措置がとられた。また、2011年度には、カリキュラム検討も行き、新科目の設置、担当者の追加を実施した。そして、さらに2012年度以降、ホームページや進学説明会においてこれらを積極的に公表し、その周知に取り組んでいる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も引き続き、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねるとともに、学部の理念・目的を勘案の上、どのような学生を受け入れるということを併せて議論していく必要があると考える。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本目標についても、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねてきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年度以降、学生に広報媒体(ホームページ、チラシ、パンフレット、進学説明会)においてこれらを積極的に公開し、その周知に取り組んでいる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も引き続き、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねるとともに、大学全体の広報をどのように連動させるべきかを検討していく必要があると考える。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本目標についても、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねてきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本研究科の固有性、特色について検討を重ねた結果、教育課程の基本理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに反映させるに至った。なお、これらについては、ホームページで公開している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本課題に対するワーキンググループ機能は、大学院諸問題検討委員会が持つことから、今後も引き続き、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討していく必要があると考える。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	